

博士前期課程（修士） / 共通科目 / 共通科目

科目コード：200013

病態生理学 Advanced Pathophysiology

担当教員	多久和 典子、石川 倫子、吉村 光弘、沖野 惣一、北村 立				
実務経験					
開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	講義・討議
必修・選択	選択	時間数	30		
Keywords	病態生理、症状・徴候、人体の構造と機能、臨床検査、臨床推論				
学習目的・目標	《学習目的》さまざまな症状・徴候を呈する患者に対し、単に対症療法的なケアにとどまらず、メディカルエビデンスに基づいた最善のケアを提供できるよう、症候の背景にある病態生理の医学的知識を獲得する。《学習目標》主要な疾患について、疾患概念、病因、病態生理と症候（症状と身体所見）・検査所見・治療の原則を関連づけて理解する。その知識に基づいて、病歴とフィジカルアセスメントの結果から臨床推論し、根拠に基づいたベスト・プラクティスを提供できる能力のレベルアップをはかる。				

授業計画・内容

回	内容	授業方法	担当
1	病歴・症状・徴候からの病態生理の臨床推論（1）	講義・討議	多久和
2	病歴・症状・徴候からの病態生理の臨床推論（2）	講義・討議	多久和
3	循環器疾患：高血圧、虚血性心疾患、心不全、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、ショック、先天性心疾患、心臓弁膜症、喫煙と循環器疾患	講義	多久和
4	呼吸器疾患：呼吸の生理、呼吸不全の病態生理、閉塞性障害と拘束性障害、気管支喘息、COPD、間質性肺疾患、ARDS、肺血栓塞栓症、肺がん	講義・討議	多久和
5	血液の生理学と病態生理学：血液・造血器疾患、血栓傾向と出血傾向（DICなど）	講義・討議	多久和
6	免疫のしくみと免疫異常による疾患：アレルギー性疾患、自己免疫疾患、免疫不全	講義・討議	多久和

7	消化管疾患: 上部消化管疾患・下部消化管疾患	講義	多久和
8	肝・胆・膵疾患: 黄疸の病態生理、ウイルス性肝炎、アルコール性・薬剤性肝障害、肝硬変、門脈圧亢進症、肝細胞がん、膵炎、膵がん、胆道系疾患	講義・討議	多久和
9	内分泌疾患: 内分泌系の生理学、下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患	講義・討議	多久和
10	代謝疾患: 糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム、高尿酸血症	講義・討議	多久和
11	腎・尿路系疾患: 腎臓の生理学、糸球体腎炎、糖尿病性腎症、腎硬化症、腎臓を悪くするそのほかの病気、たんぱく尿・血尿の意味、慢性腎不全・慢性腎臓病(CKD)	講義・討議	吉村
12	脳・神経系疾患: 神経疾患の病態生理、脳血管障害、脳炎・髄膜炎、免疫性神経疾患、遺伝性神経疾患、パーキンソン病・パーキンソン症候群、神経変性疾患	講義	沖野
13	認知症: 認知症総論、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症、認知症の薬物療法、生活機能からみた認知症医療	講義	北村
14	検査所見のみかた・考え方	講義・討議	多久和
15	病態生理学の知識の看護への活用	討議	石川
教科書	『臨床病態学』（総論・1・2・3巻 第2版; ヌーベルヒロカワ）：各疾患について分担執筆者による詳しい記述あり。章ごとの差は否めないが、辞書のように活用できる。		

参考図書等	<p>『病気がみえる』（各巻; メディックメディア）：医療者が詳しく知りたい時に手軽にある程度深く学べる。</p> <p>『カラールービン病理学—臨床医学への基盤』（西村書店）：数ある病理学の成書の中でも優れた1冊。</p> <p>『臨床病態学』（小児編; ヌーベルヒロカワ）</p> <p>『なるほどなっとく病理学』（南山堂）：深い内容を分かりやすく解説。「そうだったのか」と読んでいて面白い。</p> <p>『なるほどなっとく解剖・生理学』（南山堂）：病態生理の基礎となる人体の正常構造と機能、わすれていたら手軽に確認できます。ほか、フィジカルアセスメントであげた教科書・参考書</p>
評価指標	出席 30%、討議・レポート 70%
関連科目	フィジカルアセスメント、臨床薬理学
教員から学生へのメッセージ	<p>患者さんの症状・徴候から正しい臨床推論を導き出し、適切なケアにつなげるために、病態生理の正しい理解が欠かせません。病歴聴取・フィジカルアセスメントに際して、何に注目するのか、どこを見逃してはいけないのか、さらに、血液検査や画像検査のみかた・考え方も含めて、質の高いアートを可能にするサイエンスの理解をさらに深めましょう。治療薬の作用機序の理解も病態の理解の上に成り立ちます。病態生理とフィジカルアセスメントは表裏一体であることから、両者を行き来しながら学んでいきましょう。</p>